

ふくしま 再生 短信

10・8 佐須菅野宗夫田圃収穫祭

※ いのちのめぐみ ※

2017年10月8日午前9時より飯舘村佐須滑の菅野宗夫さんの田圃で恒例の稲刈りが行われた。2012年の試験田作付けから数えて6回目の稲刈りになる。前日までの雨模様とは違って変わって朝から青空が広がる稲刈り日より。この日、団体参加は富士通SSL（ソーシャルサイエンスラボラトリ）、三重大・弘前大・四日市大のみなさん、加えて再生の会の有志のみなさん、総勢33



刈り取った稲束を手にとって

の合ったご夫婦で二人組みでテキパキと作業が進むさまは端で見ても誠にきもちがいい。

人間の手とは僕らの稲刈りのこと。自然と人間の共生を体感するために再生の会が用意した行事である。団体参加のみなさんはチームワークよろしく稲束の山が次々と積み上がってゆく。手作業はここまで。脱穀はコンバインの機能をお借りして目黒さんご夫婦のお世話にな



手作業の稲刈り（写真上）
稲束は脱穀機へ（写真下）

名。今年も応援に駆けつけてくれたのは小宮の大久保金一さん。稲刈りで一番難しいのは藁で括る稲束づくり、実地指導してくれるのは金一さんである。

稲刈りそのものは機械と人間の手との協働作業であること、今年も例年と変わらない。今年の機械は丸森の目黒農園のコンバインである。実に息



再生の会 田圃収穫祭（写真）

りました。富士通SSLのみなさん11人、再生の会の事業に共感し、田植えを含め持続的に参加の意向、ありがたいことです。午前で全て終了、刈り上げへ。

今年の米作りで最も心配されたのは日照時間が極端に短かったこと。しかし、幸いなことに籾はしっかり成長しており後日送っていただいた「佐須米」は

誠に美味極まりないものでした。田の神に感謝。
（文責&撮影・若林一平）



コンバインは刈取・脱穀・選別を自動化（写真上）。籾は運送トラックへ（写真下）。

刈り上げ

◆「刈り上げ」とは稲・麦を刈り終えること。「刈り上げ祝い」は稲刈り後に田の神に感謝する祝い。刈り上げ祭り。鎌

上げ。鎌納め。（松村明編『スーパー大辞林』第3版、2006-2008）◆田植えのあとの宴は早苗饗（さなぶり）。機械化される以前の田植え・稲刈りは村民総出の大行事だ。宗夫田圃の刈り上げの宴で挨拶する金一さん（写真）。